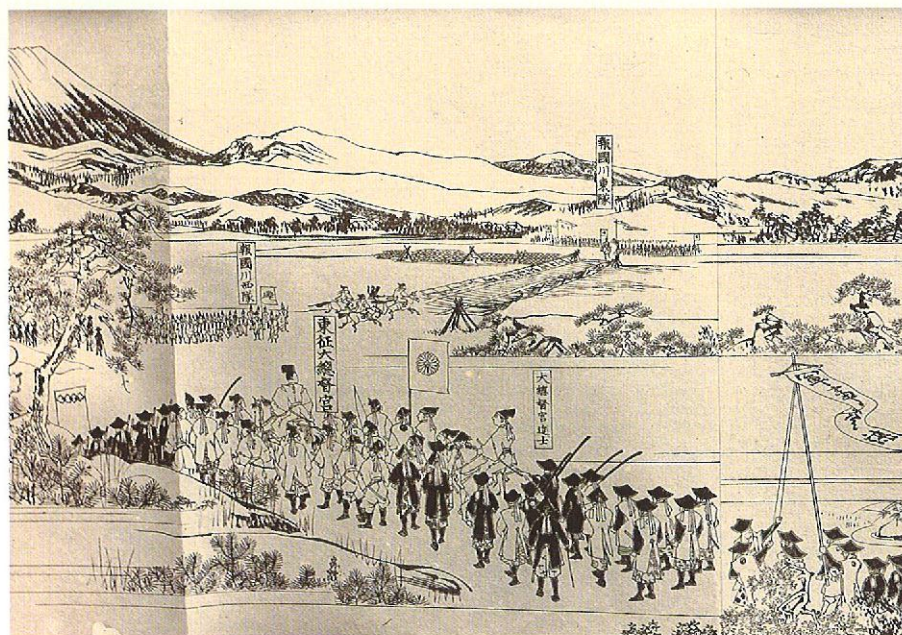


◆ 明治維新に参加した掛川の人びと



天竜川を渡る新政府軍と、川岸で整列する報国隊の図 (浜松市立中央図書館所蔵)

掛川では、主に神社の神主たちが国学を学び、その考えを広めようとしていました。

1868年(明治元年)、鳥羽・伏見(京都府)の戦いで新政府軍が勝ち、旧幕府軍が敗れ、徳川慶喜が江戸に逃げると、これを追う新政府軍が東海道を東に進みました。

これに合わせ、遠州地方では、石川依平らの国学の影響を受けた神主や国学者らを中心に「遠州報国隊」が結成されました。掛川からも9人が参加し、江戸に向かいました。また、掛川藩の武士たちも国学者らの強い働きかけを受け、幕府を倒す軍隊に協力し、明治新政府を支持する立場をとりました。



石川依平誕生の石碑(伊達方)



石川依平(資料提供 伊藤鋼一郎氏)

石川依平—掛川が生んだ国学者

5才で和歌をつくり、6才の時「秋ふかき庭のまがきに色そへて 咲そむらん露の白菊」と詠んだ歌が藩主太田侯に認められました。

17才の時、菊川に住んでいた栗田土満に弟子入りし、本居宣長の影響を受け国学を志しました。1859年68才で死去しました。



掛川からも、新しい世の中をつくろうとした動きがあったんだな。



雨桜神社



遠州報国隊のさい配と陣笠 (森町小國神社所蔵)

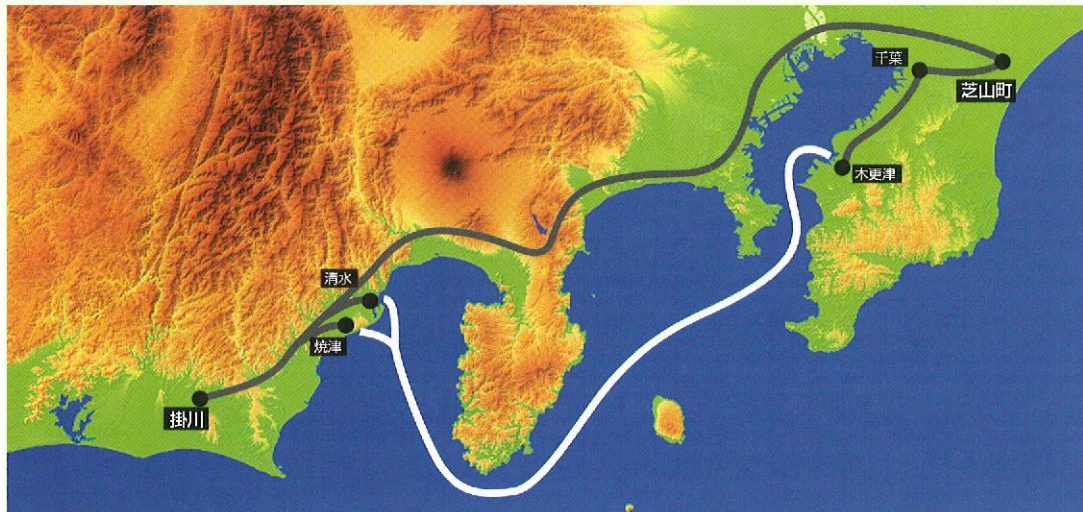


報国のししゅうをした陣羽織 (森町小國神社所蔵)

遠州報国隊に参加した人々

- |              |       |
|--------------|-------|
| 旧雨桜村上垂木雨桜神社  | 山崎一郎  |
|              | 山崎 豊  |
|              | 平尾八束  |
|              | 上村橋太郎 |
|              | 近藤一馬  |
|              | 山崎八峰  |
|              | 中山光雄  |
| 旧原谷村本郷八幡神社   | 小沢 力  |
| 旧東山口村日坂八幡神社  | 菅田束稻  |
| (現在の八幡事任八幡宮) |       |

### ◆掛川藩の行方 千葉(芝山町)へ



国土地理院数値地図50mメッシュII (静岡県～千葉県)



掛川より移築した灯ろう  
松尾町末廣神社  
(市史資料写真つづりより)

1868年(明治元年)11月、掛川藩主太田資美は、重臣、家臣ともども、柴山村(千葉県芝山町)へ移りました。柴山村は、現在の新東京国際空港(成田空港)の東南のところ。掛川藩は、寺を借りて仮陣屋とし、芝山藩5万3千石の領地支配に当たりました。

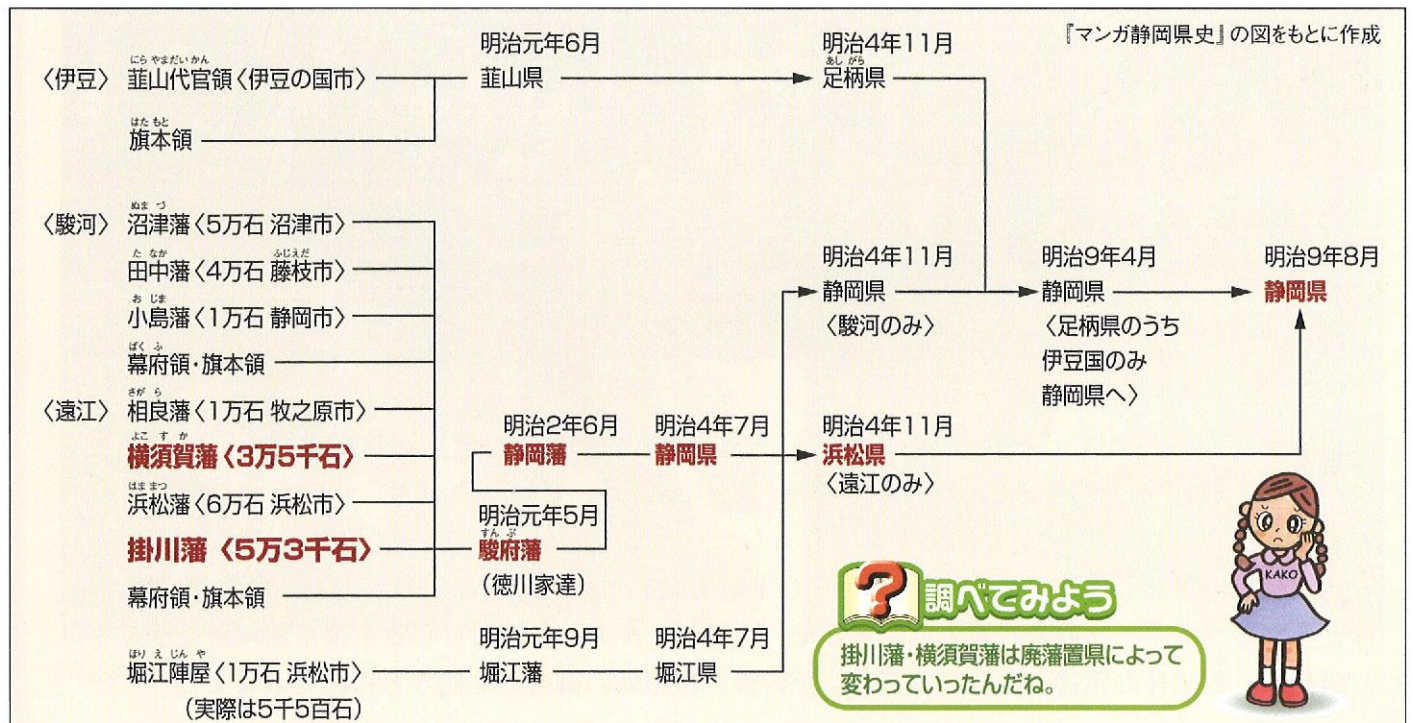
藩主、家臣のすべてが、掛川から柴山に移ったとすると、合計2,585人となり大変な数の人々が移

動したことになります。1869年(明治2年)6月までに掛川城の引き渡しを終えたとされています。焼津、清水から船を使ったり、東海道を徒歩で行ったようです。

その後、大堤村ほか3つの村の境(千葉県松尾町)に城をつくり、松尾藩となりました。

1871年(明治4年)の廃藩置県により、藩はなくなりました。

### ◆掛川藩・横須賀藩から静岡県への移り変わり(明治元年から9年まで)



# 掛川の文明開化

## ◆警察署の開設

江戸時代、今の掛川市は、大名や将軍の家来である旗本などの領地に分かれていました。そして、犯罪を取りしめる警察の仕事は、それぞれの領地ごとに行われていました。

1875年（明治8年）、元の掛川宿に、県の警察出張所がつけられました。明治10年、掛川警察署と改称し横須賀にも分署が設置されました。明治12年までに日坂に交番が、明治20年には本郷村、原川村、和田村、倉真村に派出所が、翌年に下垂木村、上西郷村、原里村、大池村、上内田村、伊達方村、成滝村に駐在所がつけられました。



江戸時代

明治時代

## ◆1890年（明治23年）にできた幼稚園



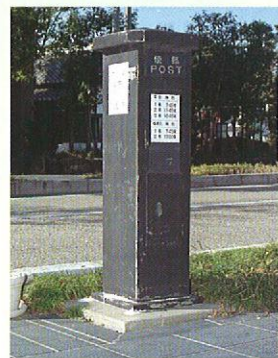
お遊戯風景（『掛川幼稚園百年史』より）

掛川幼稚園の開園は、1890年（明治23年）3月1日といわれています。掛川尋常小学校の卒業生で組織した龍城学校同窓会で「幼稚園を掛川にもつくろう」という声がおこり、それに賛成する者がさっそく寄付し、500円近いお金が集まりました。そこで、相談して、小学校長が調査のため上京し、具体的な準備に入りました。3才から6才の男女を対象とし、お遊戯、唱歌、折り紙、豆細工などをやったほか、片仮名も教えていました。ベビーオルガンを使って唱歌をよく歌ったそうです。

当初は、報徳社の建物の中につくられ、その後、掛川城の御殿の北側などに移されました。

## ◆1872年(明治5年)につくられた郵便局

- 明治5年1月1日、横須賀で郵便事務が開始されました。
- 明治5年6月、掛川宿に郵便取扱役所として開設
- 明治5年10月、日坂宿に開設
- 明治8年、郵便局と改称。この年から内国為替事務を開始します。
- 明治12年、貯金事務を開始
- 明治18年、電信事務を開始
- 明治24年、外国為替を開始
- 明治41年、電話通話を開始



復元された大正時代の黒いポスト  
(大手門の近くにあり、今も使われています。)

## ◆県下で最初の盲学校

1898年(明治31年)に掛川の飯塚仙太郎らが、日の不自由な人の教育のための学校「東海訓盲院」をつくりました。県下で初めての盲学校施設です。

このように掛川の  
文明開化が進んで  
いったんだね。



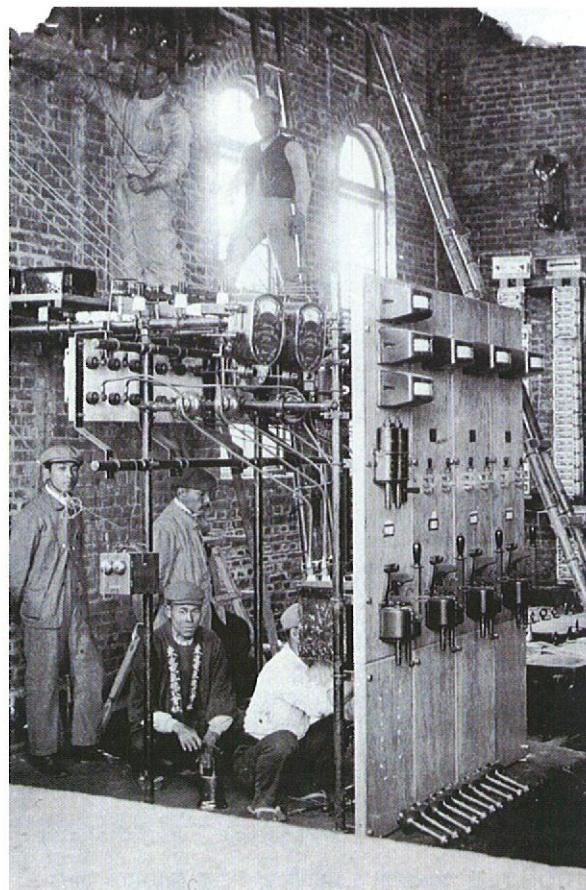
## ◆電灯の開始

1911年(明治44年)7月、松阪水力電気遠江支社が新町につくられました。イギリス製のガス機関と発電機により、初めて電灯がつけました。点灯は、日没から日の出までとされ、定額料金を払う人には電灯会社が電球や器具などをすべて用意する方式でした。

続々と申し込みの希望があり、日の回るほどの忙しさだったそうです。



大正時代の電工さん(大正10年ころ)



新町から掛川の電化が始まりました。  
(現在のかねものところ)

## ◆二宮金次郎と報徳運動

にのみや きんじろう ほうとく

掛川駅の駅前広場や横須賀小学校にこのような銅像があるのを知っていますか。この少年は、いったい誰でしょう。



大日本報徳社

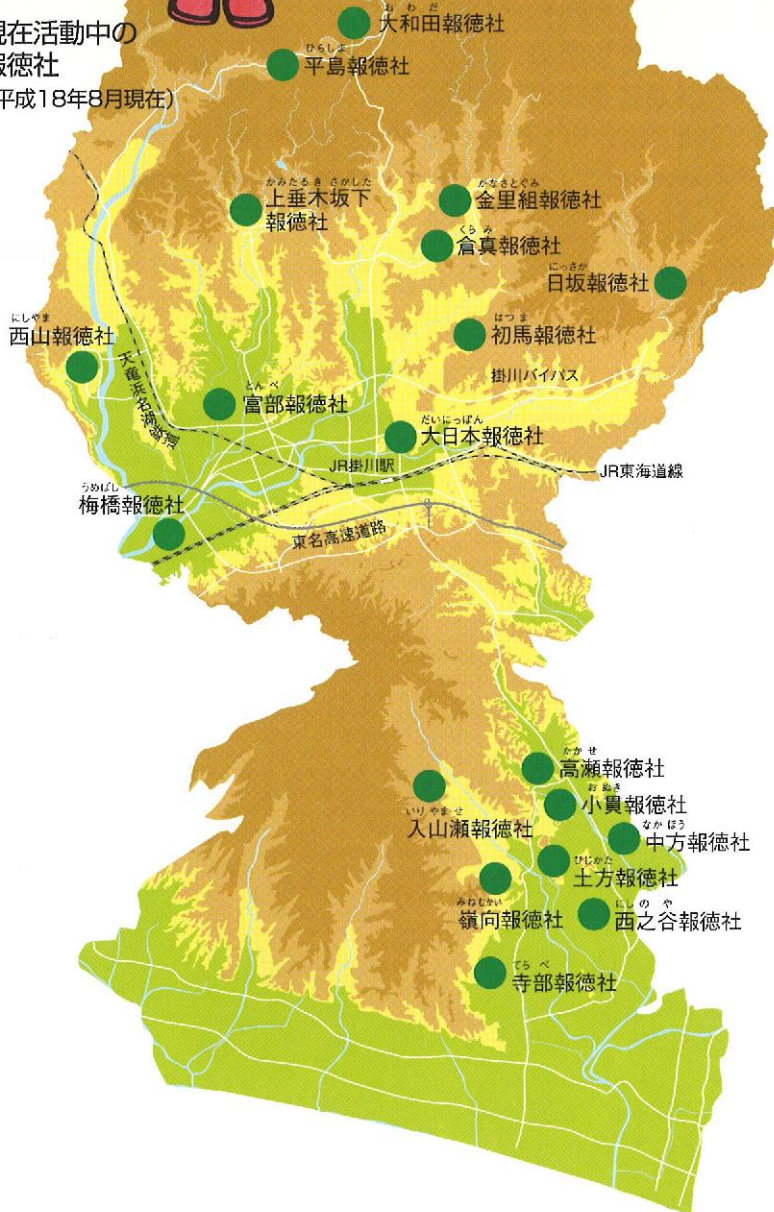


掛川駅北口にある二宮金次郎の像



わらじを差し出す二宮金次郎の像  
(横須賀小学校)

● 現在活動中の報徳社  
(平成18年8月現在)

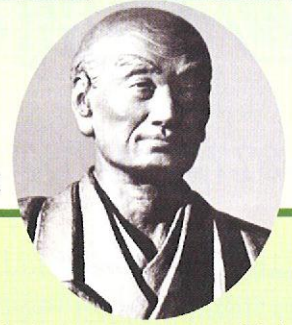


この少年の名前は、二宮金次郎といいます。金次郎は、江戸時代の終わりごろに相模国(神奈川県)に生まれ、貧しくても勉強と勤労に励みました。

金次郎は、報徳の教えを村々に広め、生活に苦しんでいた農民たちを救いました。金次郎は二宮尊徳と呼ばれ、その精神と教えは全国に広まっていきました。

## ◆報徳の教えは、三つの柱

二宮尊徳



### 勤 労



金次郎は父親を亡くし、母親を助けて2人の弟を育てねばなりません。朝早くから田んぼで働き、夜は縄をない、わらじを売りました。学問をするため、まきを背負って読書をしました。太陽の恵みのおかげで生かされているのだから、それに報いるために精一杯働くことが大事だと考えました。

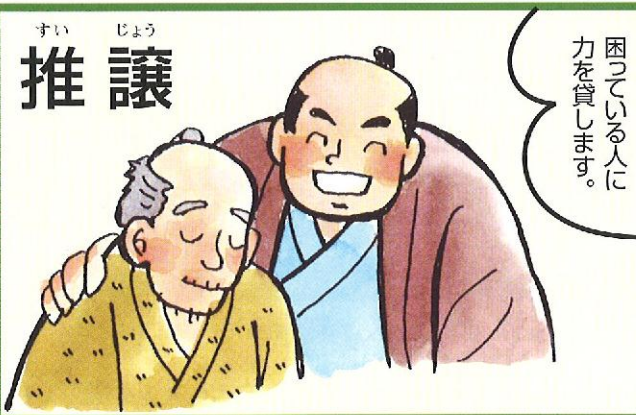
収入が3分の1に減ったにもかかわらず、今までどおりの生活を続けた服部家（小田原藩）は、多大な借金を抱えることになりました。困った末に金次郎に相談した服部家は、今までの生活を改め、収入に合った計画的な使い方や仕事をすれば、決して困ることはないと言われ、金次郎から教えられました。

### 分 度



自分の適量を知り生活すれば安心。

### 推 譲



日光に二宮尊徳を訪ねた倉真村の庄屋、岡田佐平治は、生活に困っている人や開墾の資金にしてもらうために、50俵の米を60年間掛川藩に納めることにし、これとは別に100両を藩に献金することにしました。佐平治は、自分の持っているものを他人に提供することの大切さを、尊徳から教えられました。



岡田佐平治



岡田良一郎

掛川と報徳運動のつながりは、1848年に倉真村の庄屋岡田佐平治が生活に困った農民を救うために地元で報徳社をつくったのが始まりです。やがて、佐平治は、長男の良一郎とともに、報徳の教えを周辺の村々に広めていきました。

報徳運動の中心となった大日本報徳社の本社が、掛川市にあります。

(写真提供 大日本報徳社)

# 27 学問を広めた冀北学舎

## ◆1877年（明治10年）倉真で始まった私塾

1877年（明治10年）7月、西南戦争のころ、倉真村に「冀北学舎」という私塾が開かれました。

地域の人材を育てるために、岡田良一郎が、自宅の裏の建物2棟を校舎と寄宿舍にして、12才から17才までの男子生徒を集めて開きました。

### ●全寮制

毎朝5時ごろからランプをともして勉強や読書をした後、庭のそうじやぞうきんがけなどを行いました。

### ●日曜日には農作業

学科だけでなく、実際の体験を重視したので、畑などに出て作業をしました。



栄子夫人



岡田良一郎

### ●教科書は英語の原書

このころすでに、英語の必要性を感じ、外国から取り寄せた英語の本を使っていました。

### ●報徳の教えを柱に

勤労、分度、推譲の教えを学舎の基本理念としました。

## ◆全寮制の学生生活

生徒の数は、初めは20人から30人でした。多い時には50人から60人になり、そのほとんどが寄宿していました。一年を通して朝5時ごろに起き、ランプの光で読書などをしました。明るくなると、舎内のふきそうじ、母屋、便所、門の外の道路そうじなどをしました。裕福な家の子どものなかには、そうじをいやがる子もいましたが、しだいに進んでやるようになりました。

作業が終わると全員で母屋に行き、朝食をとりました。



現在は大日本報徳社内にある冀北学舎の建物



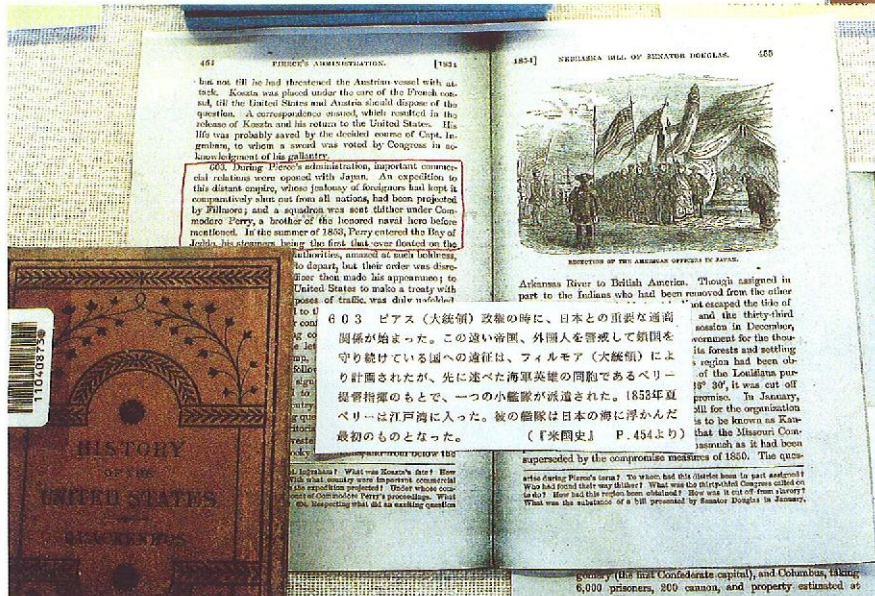
当時の岡田家本邸（御殿場市へ移築）

朝食がすむと、一同着席し、そのうちの5人から8人が一組となって先生の前に出て、教えを受けました。他の者は、自分の席で予習や作文、報徳に関する本を写したりしました。

生徒は、金銭を所持することを許されていませんでした。金はすべて栄子夫人が預かり、必要な時に渡すようにしていました。

# ◆英語教育に力を入れた教育内容

冀北学舎の方針は、「質実・剛健・勤儉・精進」でした。特に英語教育に力を入れていました。



使われていた教科書：カッケンボス『米国史』



使われていた教科書：『大学』、『中庸』

使われていた教科書は大日本報徳社の所蔵で中央図書館にあずけられています。

## 使用された教科書

漢字学	しき だいがく ちゅうよう ろんご しきょう 史記、大学、中庸、論語、詩経など
英字学	スペリング、ウィルソンリーダー、パーレイ万国史、カッケンボス米国史、グードリッチ仏国史、ウェイランド大経済書など
数学	きか だいすう 三角術、幾何学、代数学など
報徳学	せい だん あん じん でん だう へん ふ くに ゐ せき けん かつ 報徳記、報徳論、報徳齐家談、報徳安民論、報徳伝道篇、報徳富国論、無息軒翁一代記など

# ◆卒業生の活躍

この塾は、徴兵令や公立の中学校が新設されるなどの影響を受け、わずか7年で閉鎖されました。この7年間に、152名の卒業生を送り出しました。文部大臣岡田良平、宮内大臣一木喜徳郎、東京帝国大学経済学部長山崎寛次郎など、多くの優秀な人材が巣立っています。

全国的に活躍した人がいっぱいいるんだね。



京都帝国大学総長、文部大臣などを歴任 岡田良平



宮内大臣、枢密院議長などを歴任 一木喜徳郎



孫文と辛亥革命に加わった 松本君平



東京帝国大学経済学部長 山崎寛次郎





# 学校教育の始まり (明治の小学校)



松本亀次郎の下等小学第八級卒業証書

## ◆掛川市の小学校の始まり

明治時代になると、政府は「学問は世の中で生きていくもとなるものだ。どこの村にもどこの家にも、学問をしないなどという人がいてはいけない。」として、全国の町や村に学校をつくるように命令を出しました。

1872年（明治5年）に発布された「学制」と「学事奨励に関する被仰出書」がそれです。そこで、掛川でも小学校が開校されることになり、翌年の1873年（明治6年）に、8つの小学校が開校されました。その後、各地に分校や分教室がつけられました。これが、掛川市の小学校の始まりです。いったい、どこで開校されたのでしょうか。

開校した8校は地図でもわかるとおり、掛川、岡津、上垂木、倉真、日坂、下土方、西大坂、横須賀です。

最初は、掛川でも江戸時代の寺子屋をそのまま継続し、そこで授業が行われていました。学校ができたといっても、今のような建物ではなく寺などを借りて授業をしていました。もちろん、学校に通うことができた子も、以前と変わりなく、ほんのわずかでした。



読書の教科書(明治5年)



立志学校<大雲院>上垂木



岡津学校<仲道寺>

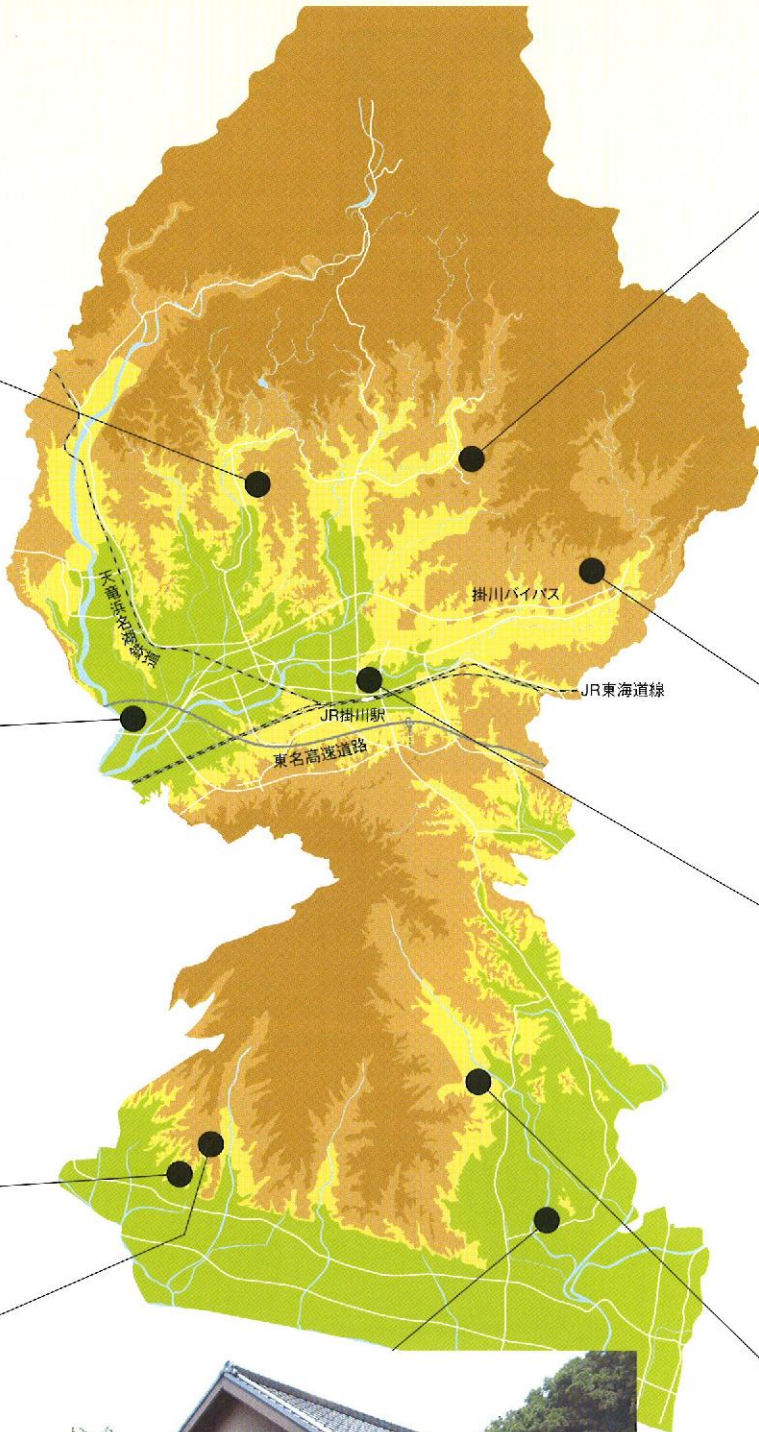
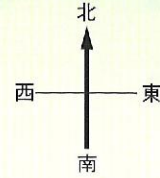


松尾学校(男子)<窓泉寺>横須賀



松尾学校(女子)<普門寺>横須賀

# ◆明治6年に開校した小学校



倉真学校<西光寺>



日坂学校<旧伝馬所>



掛川学校(掛川城内、写真は明治6年ごろ)  
掛川城御殿です。



大坂学校<霊眼寺・観音堂>



嶺学校<長寿庵>下土方

◆ 小学校の学習

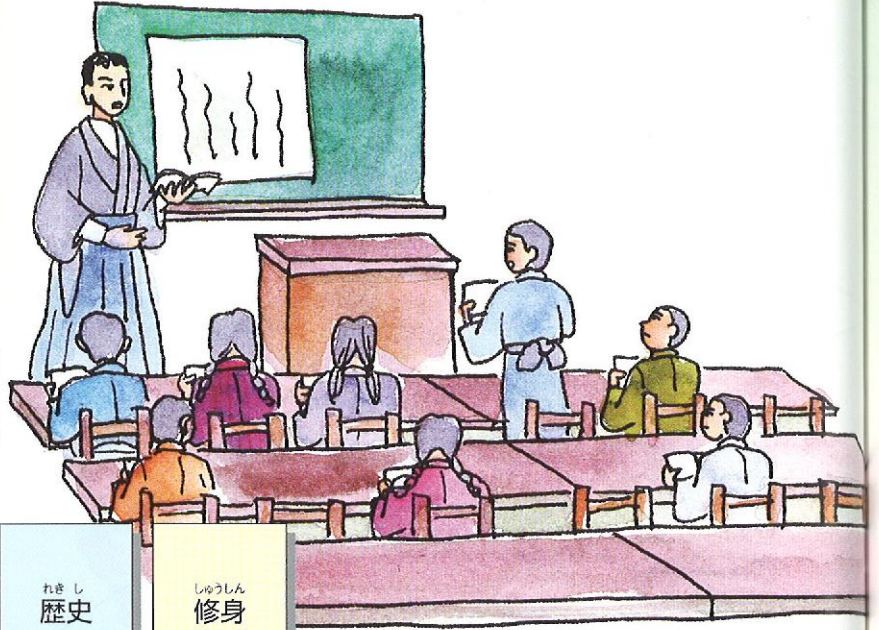
1873年(明治6年)には



が主な教科でした。

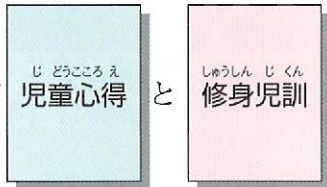
1879年(明治12年)に出された「教育令」による

初等科は



当時の授業の様子(想像図)

修身の教科書として **児童心得** と **修身児訓** の2冊があり、



教育内容が急に豊富になっています。



習字の教科書(明治13年)

1886年(明治19年)になると

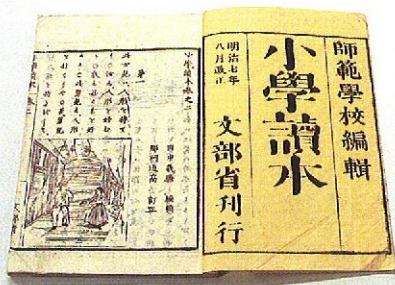
静岡県下の小学校において



が加えられました。



唱歌の教科書(明治16年)



読書の教科書(明治7年)



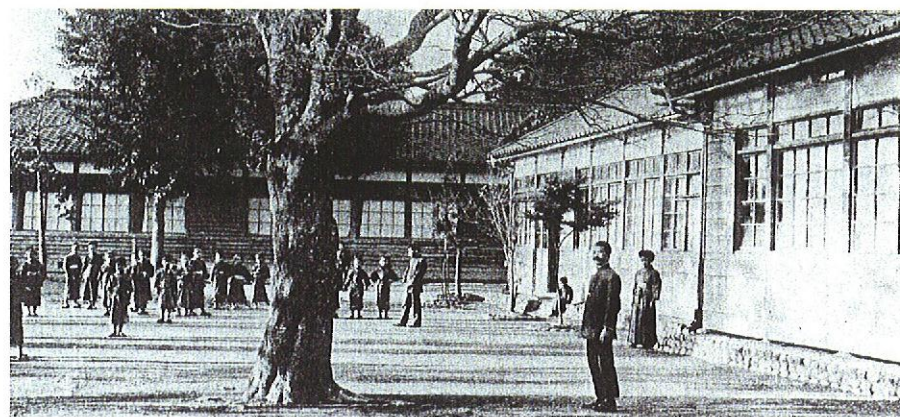
世界史の教科書(明治7年)



修身の教科書(明治34年)

## ◆村人の負担や寄付でまかなわれた学校の費用

教える場所として、初めは寺院などを借りていましたが、やがて校舎を建てるようになります。それらの建築費や教師の給料などの学校の経費は、主に生徒の授業料、寄付金、戸別の割り当てでまかなわれていました。特に村人の寄付金に負うところが大きく、寄付を出した家には、県から感謝状が贈られました。寺子屋にかわって学校がつくられるようになると、それぞれの村が個性豊かな近代的な学校をと考え、校舎を建てました。そのため建築費用は高くなり、村人の寄付金や積立金による建築も行われました。

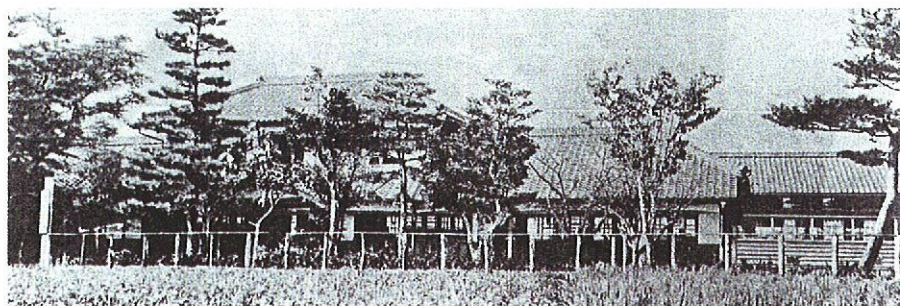
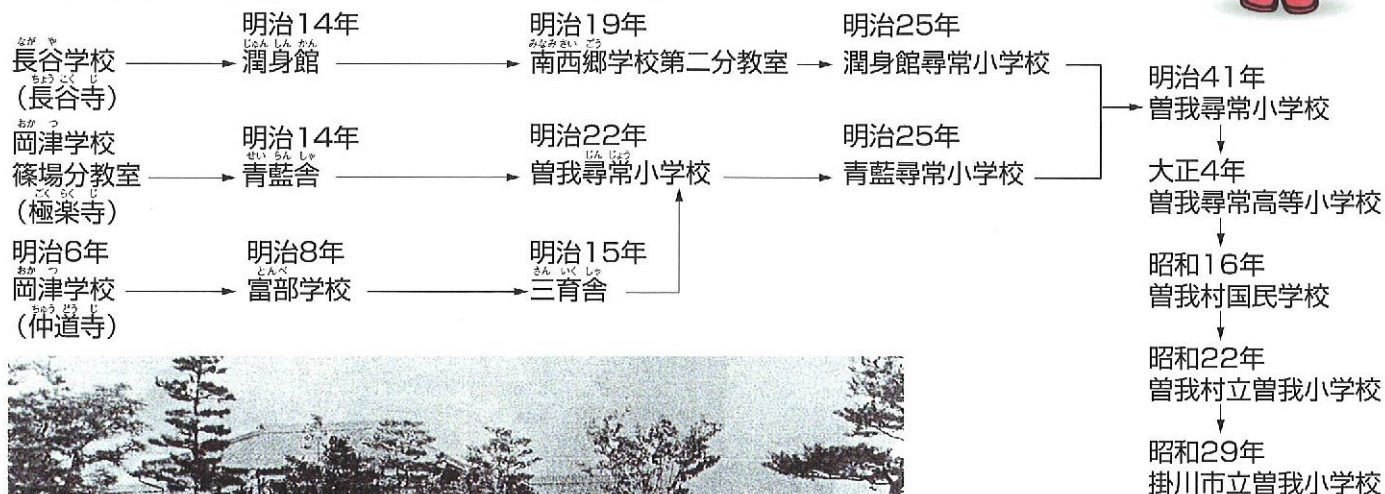


(写真提供 松村剛氏)

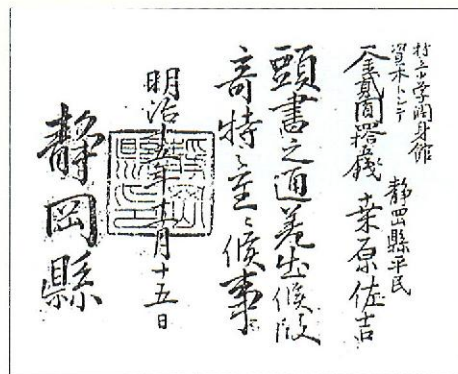
## ◆曾我小学校の移り変わり

各小学校の開校・合併・名称変更などがひんばんに行われました。

曾我小学校の歴史(『掛川市史』『曾我村郷土誌』より)



(写真提供 松村剛氏)



寄付金への感謝状、村立潤身館小学校(曾我小)  
(桑原惇家所蔵)

### 上内田小学校

明治8年段学校と板沢学校が合併して、共和学校となりました。新築費は424円ですべて学区の5か村の村人寄付でまかないました。間口8間×奥行4間(14.4m×7.2m、103m<sup>2</sup>)の瓦ぶきでした。建物が洋風化しているのも新しい試みです。

(大正4年撮影の共和尋常高等小学校)



あなたの学校は、どのような移り変わりをしたのかな?



### 曾我尋常高等小学校

明治25年創立の青藍尋常小学校と潤身館尋常小学校が明治41年に合併し、曾我尋常小学校(現在の曾我小学校)になりました。

(大正4年撮影)

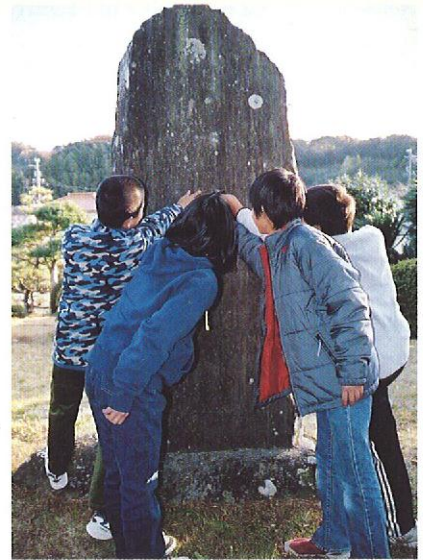
## ◆ 忠魂碑からわかる日清・日露戦争



日露戦役忠死者之碑（上内田小）

上内田小学校の運動場の南側に、このような碑を見つけました。表には、「日露戦役忠死者之碑」と書かれています。これは、忠魂碑といって、日露戦争で戦死した人たちのことを後世に伝えるために建てられたものです。裏には、なくなられた方の名前、日付け、場所が書かれています。上内田地区では、日清戦争で死亡した人はいませんでしたが、日露戦争では3人が犠牲になったことがわかりました。

このように戦地に送られた人びとをしのぶ石碑が各地に残されています。



何が書かれているか調べてみましょう。



あなたの地区の忠魂碑を探して調べてみましょう。



### 3つの碑から

左の写真はこのように刻まれています。



日清・日露戦の碑（千浜小）

左の碑

日清戦役凱旋記念

中央の碑

日露戦役忠死者之碑

右の碑

日露戦役凱旋記念



日露戦争の戦勝を祝して、帰還兵を迎えた凱旋門  
(掛川駅 明治38年)

掛川市遺族会から『掛川市戦没者名鑑、国のいしずえ』という本が、平成11年に発行されています。この本には、日清戦争から太平洋戦争までの戦死者の名前、年齢、死亡した日や場所などがのっています。



富士見台霊園 平和観世音

富士見台霊園の入り口付近の小高いところに「平和観世音」と名付けられた観音像が立っています。この像は、遠州地方から日露戦争に行き、戦死した1,059人のめい福を祈るために1907年（明治40年）に建てられたものです。当時は「戦勝観世音」と呼ばれていましたが、太平洋戦争後に「平和観世音」に名前が変わりました。（以前は、現在の掛川城天守閣のあたりにありました。）

このころの世界の動きはどうだったのかな？



庶民の生活を想像してみましょう。

梅雨の日も 耕す父母の 蓑と笠

素月

この俳句は、上内田出身の松本一太郎さんが詠んだものです。この句に寄せて一太郎さんは次のような話をしています。

「私の父は日清戦争に従軍して27円のお金を国からいただいた。三男坊の父はそのお金で古い家を一軒買い、農民として独立した。農業立国をとえられた明治・大正の時代。でも、宅地はもとより田も畑もみな借地の水飲み百姓では、年貢を地主に納めて、暮れのまかないをすませると、あと3ヶ月分くらいしか食う米が残らない。

一粒でもよけいとれるように耕し、一粒でも無駄にならないように取り入れていながら、お米は食えない。さつまいもや大根をまぜた麦飯で1年をつなぐのである。

米を作る農民が米を食えない時代がつい戦前まであったことを知る人はもう少ない……。」

「私の俳句」より



# 明治・大正の産業と交通の発達

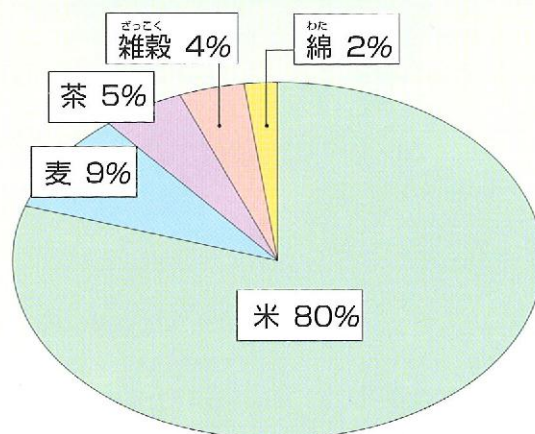
## ◆ 茶業の発達

明治のころの掛川の産業は、農業が第一でした。土地が肥えていて、米がよく取れる地域でした。1887年（明治20年）ごろから、茶の生産が盛んになり、しだいに茶畑が増えていきました。やがて、茶は掛川的主要な農産物になります。

明治のころから茶業がどのように発展してきたのかな。



明治のころの農産物

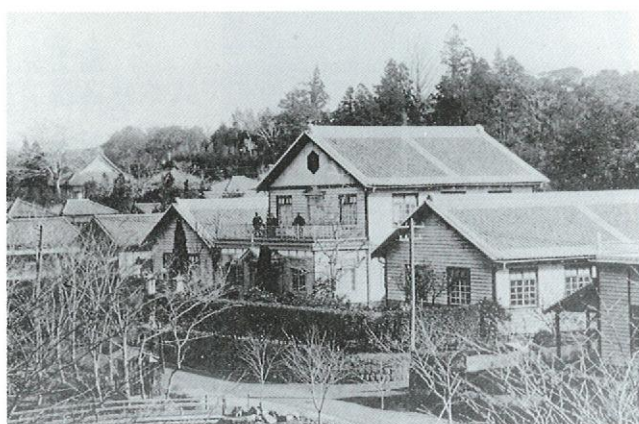


## 掛川の製茶業発展の歴史

- ・ 1879年（明治12年）  
第一回製茶共進会が横浜で開かれる。
- ・ 1883年（明治16年）  
上内田の小林源四郎が  
上内田製茶共同販売「益集社」をつくる。
- ・ 1884年（明治17年）  
掛川茶業組合がつくられる。
- ・ 1893年（明治26年）  
シカゴの世界博覧会で緑茶が高く評価される。
- ・ 1901年（明治34年）  
産業組合法により、郡内最初の上内田製茶販売  
組合が開設される。
- ・ 1905年（明治38年）  
静岡茶業研究会（県茶業試験場の前身）が結成  
される。
- ・ 1906年（明治39年）  
清水港から茶の輸出が始まる。
- ・ 1910年（明治43年）  
清水港の茶輸出货量が全国一になる。
- ・ 1919年（大正8年）  
国立茶業試験場が牧之原につくられる。



（『小笠茶業史』『茶道楽17号』から）



小笠郡物産陳列館（大正11年ごろ）（写真提供 松村剛氏）

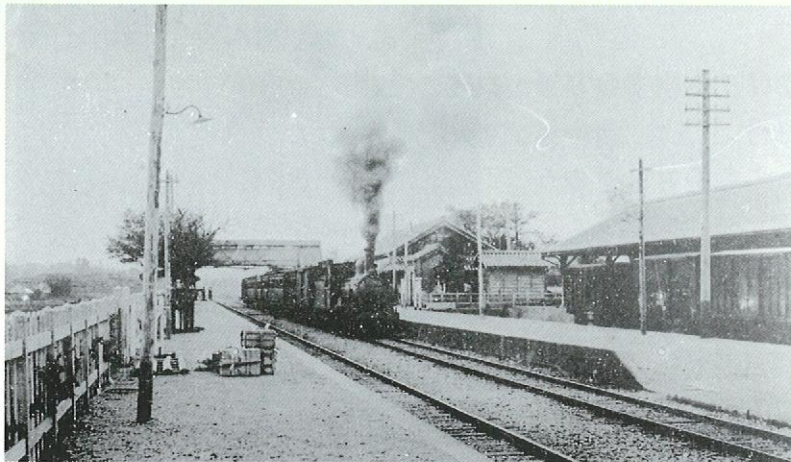
1902年（明治35年）、小笠郡物産陳列館が、城内（現在の中央図書館の場所）に建てられました。農産物などの陳列のほか、生産指導をしました。



製茶品評会へ出品する風景（昭和の初めごろ）

（写真提供 松村剛氏）

掛川での茶の本格的な栽培と製造は、1870年（明治3年）に杉本権蔵が、大きな広い茶園をつくったのが始まりといわれています。



開業当時の掛川駅

(写真提供 松村剛氏)

## ◆ 東海道本線の開通

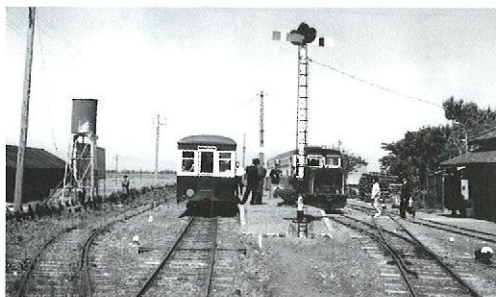
1889年（明治22年）7月1日の東海道鉄道（東海道本線）の新橋・神戸間の開通に先立ち、4月16日浜松・静岡間が開通し、掛川駅が誕生しました。

計画当時、見たこともない蒸気機関車がまちなかを走ることに反対した住民がいたために、線路と駅はまちなみから離れた田んぼの中につくられました。

## ◆ 軽便鉄道

大正時代に入ると、袋井から大須賀・大東を通過して藤枝までを結ぶ『軽便鉄道』が走るようになり、自動車が多くなるまでは、人々の重要な移動手段として利用されていました。

昭和42年には、この軽便鉄道はなくなってしまいましたが、今でも、当時の路線や駅のあとのおもかげを残すものがいくつかあります。



昭和39年 新横須賀駅

(写真提供 花上嘉成氏)



## 葛布

葛布は、江戸時代から掛川の特産品で、武士の袴や袴などに使われていました。明治維新後、あまり売れなくなり生産が減りましたが、1897年（明治30年）ごろから壁紙などとして海外に輸出されるようになりました。



葛を紡いでいる風景（明治時代）

(写真提供 松村剛氏)